

午後 1 時 30 分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

定刻の時間となりましたので、ただいまより平成28年2月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見は、最初に市長の挨拶、その後につきましては、本日は事業発表がございませんのでフリーの質疑応答に移らせていただきます。

なお、ご質問の際は、お手数ですがけれども、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っていただきますようお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力よろしくをお願いいたします。

それでは、市長、よろしくをお願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。どうぞよろしく申し上げます。

平成28年も、はや1カ月が経過いたしました。ことしの冬は、暮れもお正月も雪のない穏やかな気候の中、過ごさせていただいております。感謝申し上げます。

また、昨日は、おおい町の合併の10周年ということで式典に参加しましたがけれども、道中も雪がなくて、いい年明けだなというふうに感じております。

また、気比高校の第88回選抜高等学校野球大会に2年連続7回目の選出が決定しまして、1月29日に発表ということでございました。大変喜ばしいことであり、市を挙げて応援したいと思っております。また、懸垂幕を設置させていただきまして、「敦賀気比高校ガンバレ甲子園」ということで出させていただいております。ことしは連覇ということを負って大変重圧も高いと思いますが、ぜひとも持てる力を精いっぱい出していただきまして、悔いのない試合をしていただきたいというふうに期待申し上げます。

あと、平成28年度の当初予算の編成を、一応市長査定が終わりまして、今、3月議会に向けての予算案提出に向けて作業を進めているところでございます。また記者の皆さんにも別途ご説明をすることになると思いますので、よろしく申し上げます。

それから、最近の省庁要望につきましては3件ございまして、1月27日に、近畿地方整備局に国道8号の敦賀南越前バイパス整備に関する要望活動としまして、南越前町と合同での要望活動に行っております。また、1月28日は、総務省へ特別交付税に関する要望活動ということで行かせていただきました。また、1月29日には、資源エネルギー庁のほうにエネルギー構造転換理解促進事業に関する要望活動ということで、美浜町と一緒に合同で行かせていただいております。

また、立地協の関係で動いております。それとあわせて原子力懇談会の視察ということで鹿児島県の薩摩川内のほうに訪問いたしまして、あわせてダブルスケジュールという形になったんですけれども、全原協の会長として佐賀県の玄海町のほうも訪問しております。

最近の動きとしますとそういうところでありまして、きょうは提出議題がないものですから質疑の時間が長いですがけれども、どうぞよろしく申し上げます。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、順に質問をお受けいたしたいと思っております。

最初に、幹事社さんからお願いいたします。

【記者】 先日コメントも出していただいたんですけども、県内の高浜原発3号機が再稼働して、原発が今後再稼働していくという動きの中の一つかなと思うんですけども、この件について、重ねてで申しわけないんですけども、ご所見のほうを教えてくださいたいと思います。

【市長】 安全が確認されました原子力発電所を再稼働するということは、日本にとって必要なことだというふうに考えておりますし、国及び事業者は、原子力発電所の安全向上に不断に取り組みながら安全運転の実績を着実に積み重ねて、立地地域が示した再稼働への理解と信頼にしっかりと応えていただきたいと思っておりますし、今後とも消費者への電力供給を通じて我が国の経済産業や国民生活を守るといった原子力発電が担うべき役割を確実に果たしていくことを期待しておりますということです。

【記者】 先ほど直近のスケジュールをお話ししていただいたんですけども、その中で美浜町さんと一緒に資源エネルギー庁に行かれたということですが、これは具体的にどうい

とを要望されたのでしょうか。

【市長】 今度新しくエネルギー構造転換理解促進事業というのが始まりまして、総額45億だったと思いますが、それについての具体的な事例というのを立地のほうで示していただくと、それに対してお金を出すかどうか決めますというような話なんです。ですから、私どもがこういうことをしたいんですけれども、これに対してその事業に合っているかどうかというすり合わせをずっとしているんですけれども、一応自分らがこんなことをしたいんですけども、それでどうなんだろうということのお話をしに行っていました。

あんまり具体的に決まらないので、私らもそれを具体的に言うわけにいかないんですけれども、お願いしたのは、いろいろ考えて出してくれと言われても漠然としていると出しようがないので、ある程度こういう項目で、そのうち例えば5項目あったら3つを満たしておるとか、そういうような何か示し方をお願いできませんかみたいな話で、美浜町さんと一緒にやれるものがないかということを探していますので、一緒に行っていました。

【記者】 なかなか具体的なことはおっしゃれないということなんですけれども、幾つぐらい提案しているんですか。

【市長】 一連の中で5つぐらいの項目があって、その一連のことをしたことで、これに合致しますかみたいな。

【記者】 やろうとしていることは1つで、それが項目に合致しているかどうかというのを聞きにいったということなんですか。

【市長】 はい、そうです。いろいろ積み上げてきているんですけれども、この事業名からしますように、エネルギー構造転換なのか、自治体の構造転換なのか、理解促進というのはどういう理解促進なのかということがありますので、どこまでが当てはまって、どこまでが当てはまらないかということ打ち合わせに行ったということです。

【記者】 確認なんですけれども、敦賀市単独ではなくて、美浜町さんと一緒に何かをやるようとしておられるということでしょうか。

【市長】 はい。一緒にやろうとしていることがありまして、その中で乗せたいなと思っています。

【記者】 先ほどお話にもありましたけれども、当初予算に向けて査定を終えられたということで、詳しくは次回お話いただけたと思うんですが、現時点で、どういったところに重点を置いて、またスリム化も進めなければならないとおっしゃっていたと思うので、その辺どういうふうにめり張りをつけて予算編成をされる方針か、改めてちょっとお聞かせいただけますか。

【市長】 私自身も初めての予算編成だったので、結構手探りな部分もあったと思いますけれども、部長査定、副市長査定もありまして、重複している事業とか、もしくはここでコスト低減できたらよそにも低減できるんじゃないとか、そういうこととか、基本的にこれでいいのとかかという事業もありましたので、そういうことを一つずつ時間をかけて見ていったということでありまして、私だけで出せるものでもないの、お願いしたのは、それを広くまた各部署に持ち帰ってもらって水平展開してほしいと。そういう目を。私が見る目と、従来の役所の人が見る目と、民間と違うと思いますので、そういう見方もあるよということを広げていけたらなと思って取り組みました。

【記者】 無駄という点あれですけども、スリム化という部分ではおおむね達成できたというふうに、できそうというふうに思われますか。

【市長】 ゼロからの見直しということで事業の見直しをしていただきましたので、かなり目標に近づいたと思いますけれども、目標を完全に達成できたかという点、まだまだ不足の部分はあると思います。

【記者】 突っ込んで聞くとあれだとは思いますが、市長はずっと以前から、やはり金ヶ崎緑地周辺のああいふ観光誘客ですとかに力を入れたいとおっしゃっていたと思うんですけども、ちょっと聞くとところによると、その辺も絞りぎみに来ているというところも聞いたんですが、どうなんですかね、予算の方針として、政策としてやっていきたいところと予算をつけにくいというのと、なかなか合っていないとか、そういう難しさというのはあるんですか。

【市長】 全部を絞ってしまおうと思いますけども何もできなくなりますので、絞るところは絞って、使うところは使わなくてはいけないと思っていますけれども、絞ったのが目立ったかもしれません。

ただ、金ヶ崎緑地なんかでは、今、杉原千畝の映画もありますし、ムゼウムのほうも人がたくさん来ていますし、また皆さんボランティアでやってくれている実行委員会でやりましたミライエのこともうまくいっていますので。そうすると、それをじゃどうやって継続的にできるかということを探していかななくてはいけないので、例えば、ミライエをやっている間、入場料がもらえるようにするとか。そうすると実行委員会が次の運営費が出てきますので、そういうことも今後検討していかななくてはいけないというふうに思っています。

行政ができることと民間ができることと違うと思うんですね。ですから同じミライエの事象をとっても、例えばそこの横でお店を出してラーメンを振る舞ったりとか売ったりとかするのはやっぱり民間の人がもうけなあかんことですし、システム的にそこを使えたり入場料を取れるようにするのは自治体の仕事でしょうから、そういうすみ分けをしながら、いいことだったらどんどん次からもできるように、発展するように応援していきたいというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社、質問がございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 北陸新幹線の敦賀より西、南のルートについてお聞きしたいんですが、先日、JR西日本が小浜、京都、大阪が望ましいと表明されたんですが、各県沿線それぞれ思惑あるようですが、敦賀としてはどのルートが今望ましいと思われていますか。

【市長】 前も申し上げたと思うんですけども、小浜を通過して大阪というのはもう既定のものだと思っていますので、そのルートの中で京都を通過してくれればすごく魅力的だというふうに感じています。やはり港がありますし、北陸新幹線を通ってきた人たちが京都のほうを目指す過程の中で敦賀におりていただければすごくありがたいので、これはすごく魅力的なルートだと思っています。

【記者】 京都を通る魅力というのは、どういうところに感じていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 やはり外国の観光客の方というのと、やっぱりどうしても京都を通過して、一度京都に行ってみたいという気持ちがあるでしょうから、京都を絡めた観光ということが提案できる可能性というのは非常に魅力的だと思っています。

【記者】 冒頭の最近の動きの中で、特別交付税の要望もなさったとお話だったかと思うんですけども、それをちょっと教えていただけますか。

【市長】 特別交付税は毎年この時期に要望することらしくて、私もそれに、その日程で行かせていただきまして、総務省のほうに行かせていただいたんですけども、今の時期は各自治体、要望活動を行っているということだと思います。その中で、特別交付税は敦賀市は実は県内で一番金額が低いので、何とかもうちょっと他の市町さん並みに欲しいなというお願いをしてまいりました。今までは、昭和62年までは県内で3番目だったんですけども、不交付団体になりました。ずっとそれ以来、平成22年の交付団体になってからもずっと一番県内市の中では少ないということなので、今のこういう原子力の関係もありますし、北陸新幹線、それから福井しあわせ元気国体、また人道の港に関することもやっていきたいということで、もっとたくさんもらえませんかというお願いをしてまいりました。

【記者】 例年と同じ内容の要望ということになるのでしょうか。

【市長】 去年の内容は私存じ上げんのですけれども、多分ちょっと足してあると思います。项目的には6項目つけて持っていきました。

【記者】 それと、先ほどのエネルギー構造転換理解促進事業の関連なんですけれども、美浜町との合同での事業ということでしたが、当然詳しい内容はまだお話しいただけないかと思うんですけども、さわりだけでも。どういうもので、どのぐらいの予算規模でというようなのはあるのでしょうか。というのも、この事業が国から提案された一つ背景に、原発の交付金が減る分、その穴埋めみたいな形で提案された経緯があると思うので、敦賀市の場合、それを穴埋めするぐらいの規模なり効果が期待できるのかどうかということをお話しいただけたらなど。

【市長】 テーブルにのれれば穴埋めできると思うんですけども。

ただ、今難しいのは、原子力のお金でなくて電力会社のほうから持ってきているお金だと思いますので、役所も一枚岩じゃないみたいな感じがありまして、担当レベルでしゃべっていて、うまくいきそうだなと思っているけれども、ちょっとだめかなみたいなテンションが変わるので、今ちょっとお話をしづらいところにあります。ですから、もしかすると全くだめでゼロになっちゃう可能性もありますので、行ってきましたぐらいしか言えないというところが正直なところだと思います。

先ほどの8号バイパスとこれもそうですけれども、今、ハーモニアスポリス構想をやっていますので、隣の自治体と仲よくしましょうという動きの中に関連しての動きになってくればいいなというふうに思っています。

【記者】 それは新年度予算に計上の予定で今検討されているということなんでしょうか。

【市長】 新年度予算にはのらないと思います。

【市民生活部長】 新年度予算に、補助金の関係でございますので、補助要綱も市長申し上げましたように具体的に何も決まっておられませんので申し上げられませんし、全く新年度でも上がっておりません。今後、補正の対応になるのか、また29年度予算になるのかは今のところ何とも未定でございます。

以上でございます。

【記者】 現状の見通しでは予算規模ってどんなものになるんですか、この事業の。

【市民生活部長】 もともとの国のが45億、総額ですね。いろいろ自治体からあろうと思えますし、全ていただいたとしてもそういう規模でしょうし、単年度に終わるのか何年度に終わるのかということも全然未定でございますので、何ともちょっと。特にゼロということも十分考えられる話でございますので、その補助要綱を固めていただくために市長にもいろいろ行っていただいて要請をしていただいたということですので、詳細がわからない限り、新年度でいつ補助申請ができるかも未定でございます。

以上でございます。

【記者】 今つくっていると思うんですけれども、総合計画の後期計画、今どういう状況で、いつごろにご公表なされるのか教えてください。

【企画政策部長】 2月の半ばぐらいに、素案としまして、まず審議会にかける前の形のをい出していただくかというふうに考えております。

実際、審議会が新年度、4月以降に審議いただきまして、審議委員の皆様で。大体9月過ぎぐらいに正式なものとして形になるのではないかとというふうに考えております。

【記者】 はい、わかりました。

それともう1点ですけれども、行政改革に関して、本年度の6月補正予算で外部コンサルティングにかけて業務量とかの調査をするという事業がたしか700万円ほどでついていたかと思うんですけれども、それは当然、新年度予算に何らかの形で反映されてくるとは思うんですが、その調査結果については、調査というかコンサルティングの結果については、何らか公表するようなタイミングとかはあるんですか。

【総務部長】 6月補正で予算計上いたしました行政改革の調査事業のことだと思いますが、今現在、鋭意調査を進めておりまして、ちょうど今中間あたりの集計的になってきておる状況でございます。完成についてはもう少し時間がかかるかと思っておりますので、そういった形の中で今後取り組むような事業とかそういうことが出たときには、また改めて発表させていただくというのは考えておるところでございます。

【記者】 これって本年度事業でしたよね。

【総務部長】 はい、そうです。

【記者】 話変わるんですが、国道8号の2車線化なんですけど、去年の12月議会でこれから進めていくというお話があったようなんですが、ずっと長年事業が停滞していて、突然動き出した理由や背景というのはどういうものがあるんですか。

【市長】 私の認識なんですけれども、停滞していたというのは予算化できなかったんだと思いますし、今、予算化できるような状態になった、国のほうが、というのが事実だと思いますけれども。その中で流れが出てきているということですし、要望書も出てきましたので、一部あるところとないところがありますけれども。そうすると、一応私の思いとしますと、沿線の方全てが応援していただきたいという気持ちがありますので、やりたい人とやりたくない人、多分いらっしやると思いますから、その辺の議論を進めていただいて一番落ちつくところになってほしいなと。一部報道で、できるところだけでもという話が出ていますけれども、そうじゃなくて、皆さん沿線として、これでいいねという話を持っていきたいなという気持ちがあります。

ちょっと不足があったら部長が言います。

【都市整備部長】 特にございませぬ。

【記者】 じゃ、国が予算化できるようになったから事業を進めれるということになったという

ことで、特に渕上市長が就任されてから強い思いがあって進めていこうということではなかったのですか。

【市長】 はい、そうです。私は、もともと4車線のままだがよいと思っっているんです。

ただ、2車線にしたいという人の意見がたくさん出てきましたので、じゃ2車線にしていく上で、もう一回洗い直して、みんなが納得できるような2車線にしましょうというのが私の気持ちです。

【記者】 市長は今も4車線のままだがよいという思いですか。その理由も教えてください。

【市長】 私、判断する立場なので、私の気持ちを余り前面に出さないほうがよいのかなと思っっているんで、出さないように、言わないように心がけております。

【記者】 ただ、4車線のほうがよいとおっしゃいましたよね、今。

【市長】 そういうことを言っていましたから。気持ちはそういう気持ちがありますけれども、一番いい答えが、皆さんの納得するものを見つけるのが私の仕事だと思っっていますので、自分の意に沿わないことも、していかななくてはいけないこともたくさんあると思っっています。

【記者】 ということは、これから協議会をつくるんですかね、地元の人や市や関係者の。そういうわけではないのですか。

【市長】 今、その話は出てないと思っっています。ただ、皆さんの意見を聞くチャンスはつくっっていくと思っっています。

【記者】 先ほど市長おっしゃっていましたけれども、地元の商店街3つあって、1つはかたくなに反対を表明されているようですが、意見が地元でまとまらない場合はどうなるんですか、あの事業は。

【市長】 国としてはやっていきたいというところで予算つけていますので、進めていくことになろうかと思っますけれども。

【記者】 地元の総意がなくても国としては進めるだろうということですか。

【市長】 そこは今からだと思っます。

【記者】 2月9日に、もんじゅの検討委員会の有馬さんたちがもんじゅを視察に来られるんですけれども、その際に渕上市長とお会いになるという予定は今のところないのでしょうか。

【市長】 はい。今ありません。ないと伺っっています。

【記者】 高浜3号機の再稼働に関してなんですけれども、現段階で災害時における避難の実効性に対して疑問視する声というのが出ていたりすると思っんですけれども、それに対して市長の受けとめを伺ったいんですけれども。

【市長】 実際にはできるかどうかということに対する不安があるということですね。それはどこかで説明責任、説明されることになるんだと思っますけれども、敦賀の場合も同じような状況を抱えていますので、一度いろんなことをシミュレーションしながら検討していかなくてはならないと思っっています。ですから、災害ということの中で原子力ということなんですけれども、単純に発電所が事故が起きた場合とか、地震、津波があって発生した場合とか、複合的にそうやって起きてくる可能性がありますから、じゃそんなときにどうしたらいいのかというのは改めて、敦賀の場合ですけれども、もう一回見直す必要はあるかなと思っます。

【記者】 それに関連して、説明する主体としては自治体がまずすべきだと思っますか。

【市長】 市と県で一緒にやっていくべきだと思っますね。

【記者】 前回の定例会見でも一部、知事同意の話で関連で出ていたと思っんですけれども、今そういう状況で市長が受けとめられている中で、今回再稼働されたということなんですけれども、やっぱりそれについては避難計画とかとは別問題で、歓迎すべきことであるという捉え方でよろしいでしょうか。

【市長】 高浜の原発に関しましては、町で判断されていますし、県で判断されているので、それでいいと思っっています。

【記者】 ちょっと抽象的な質問になってしまっって申しわけないんですけれども、まちづくりに関して市長のお考えを伺えたらなと思っっているんですが。

よく各市内のいろんな人とお話をしていると、敦賀はどうもまちづくりに民の力がちょっと足りないんじゃないかというような意見をよく聞いて、例えば嶺北なり滋賀県の近江のほうのまちづくり、にぎわいづくりの活動と比べると、敦賀市民はどうしても何となく弱いんじゃないかと思っ聞かんですけれども、市長はどんなふうにとめていらっしますでしょうか。

【市長】 そうですね。弱いというか、結構お上品というか、行儀がいいんじゃないかなと思いますけれども。といいますのは、例えば甲子園に出場して優勝したというと、誰がとめてもパレードをして騒ぐ人が出てくると思うんですけれども、だめだと言われると皆さん我慢して心の中でお祝いしてじっとしていますし、県立球場が改修中で、敦賀たくさん市営球場を使っていたんですけれども、そのときにお弁当屋さんとかジュース屋さんとかいろんな物を売りに皆さん来るかという、なかなかそうもされませんし、ミライエも4万人、人が来たというと、無理からでもあそこに出張ってきて何か物を売ろうという人もいないので、そういう意味では、やっぱり栄えてきた敦賀市なので、きちんとしようという気持ち強いのかなと思います。ですから、今しようとしているのがアクアトムから気比神宮までの門前に人の流れをつくって店売りをしようということをしたんですけれども、商売したいとか、そういう活力と言えればいいかわかりませんけれども、そういうことができる場所を一回提案したいなと思っています。

【記者】 今ほどの栄えてきた敦賀なのできちんとしているのかなというのは、どういったようなことなんでしょうか。もうちょっと詳しく教えていただけますか。

【市長】 ですから、大都会に行きますと、警察に怒られても店を広げて何か物を売ろうとしますよね。そういう人は敦賀ではなかなかいないと。そんなことをしなくてもよかったんですよ、きっと今まで。

【記者】 それは、この40年ぐらいの原子力に関する内容なんですか。

【市長】 いや、そうではなくて、ずっと昔からそうだと思いますね。敦賀は交通の要衝だったので、いろんな人が出入りして、それだけで十分ににぎわっていたまちだと思います。

【記者】 なるほど。確かにおっしゃるとおりで、昔から特に頑張らなくてもにぎわいのあるまちだったのかなと思っておるんですけれども。そうは言いながら、最近原子力が長期停止しているということもあって元気がないんですけれども、民間に期待することとか、何か一言ありましたら伺えますか。

【市長】 若い人たちが今、氣比の杜フェスタとか、先ほどのミライエとかということ自分らでやろうとしていますので、その人たちの力というのは非常に楽しみにしています。ですから、それを余計なこととか邪魔するんじゃないで、できるだけお手伝いして膨らませていけたらなど。また、ほかにもそういう人たちが出てくれば当然応援させていただきたいなと思っています。それを横取りして手柄をとってしまうと潰れてしまうと思いますので、上手に行政が黒子に徹することができたらなと思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして2月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後2時2分 終了